

(4 年担任 高桥奈绪美)

PDCA サイクルの計画

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R5 校内研究のため 昨年度「算数」 決定!!	R6 半年度の公開に 向け、みんなで作る。 4月・5月でまとめを ① 実態把握 「日常授業」「NPT」 ② 校内研究 「めざす子の姿」 「めざす授業像」など 共通理解 * NPTの分析	授業研① (小石研) ↓ ふり返り 4年成果と課題① * 全国学習同士の分析	授業研② (大石研) ↓ ふり返り 成果と課題② * マス確識問題実施	授業研③ (大石研) ↓ ふり返り 成果と課題③ * 到達度テストの実施→分析→補充	半年度に向けた 校内研究のふり返り ① 変更したことで こぼれ、テンパ ② ...取り戻しやすさ ③ めざす姿の達成度 ④ 半年度の授業の姿はど 共通理解 イメージとして R7へ	R7 NPTへ						

PDCA サイクルを機能させるために、自分ができることとは・・・

- ① どこを
- ② どのように

具体的な手立てを!

5月時点で、
自学報について分析ね
分析ポイント
言葉、数字で表す
そこから、学び直す回。

学級の強みは! ⑤やる気がいっぱい!
⑥とにかく矢張り高い!! (算数)
⑦課題解決に向けて
がんばろうという気持ちが授業
⑧分かることを/分からないと言える。
⑨考え合える雰囲気がある。言葉明
かすことが
い。

学級の課題は・・・
⑩個別でみると、知識を2極化
⑪絵や図を見て、文章を読んで
考えるところがある。
こまじやうい。
⑫長い文章を言葉に出来ない理解×
⑬文章で言えよう力が弱い。

課題を解決するための授業改善
⑭知識が低い児童→レディネス、予習、本時
⑮今の学びが役に立って
⑯1人1人が家でできる授業→発展
⑰先生も
⑱答えヒントを見つける。
(言葉)

見方・考え方	子ども向けの表現
見方	～に注目する(2、3、4年) ～に着目する(5、6年)
単純化	かんたんな場合で考える
一般化	いつでもいえるか考える
抽象・明確	わかりやすく表す
類推	同じように考える
帰納	さまりを見つける
演繹	わかっていることをもとに考える
統合	同じところを見つけてまとめる
発展	広げて考える
日常生活	生活にいかす

6 課題解決のために授業改善（授業研で提案したいこと・日常の取り組みなど）

・45分の授業のパターン化 レディネス→課題→考える →まとめ→練習 ・書く活動の充実 ノート指導を徹底(常時活動)	・見方考え方の提示 ①教師側からの提示 ②授業の展開の中からうま れる提示 ③まとめとしての提示	・「コグトレ」の実施(毎日) ①毎日10～15分 ②日替わりチャレンジ ③「できた!」を実感させる ④友達と対決など弾力的に!	・算数の単元計画提示(大研) 大研で作成した指導計画を 児童版でも作成する。導入時 に提示し、興味関心を持たせ る。	・宿題の確実なチェック! ①登校したら自分で丸つけ ②担任がチェック ③誤答が多い問題は、全体で 補充指導して確認
--	--	---	--	---

取り組みの振り返り・児童生徒の姿の見取り (8月)

◎授業パターンを意識して授業づくりを行った。児童もノートを広げて準備して待つようになった。メリハリのある授業がいい。45分で完結する授業を展開できるようになった。

△見方考え方の提示の仕方には課題がある。問題解決の話合いの中で児童から出てきた言葉をうまく使えるようにしたい。

取り組みの振り返り・児童生徒の姿の見取り (12月)

◎授業パターンは確実に身に付いている。

◎コグトレの「数える」領域に取り組んだことで、計算の基礎力アップを図ることができた。

◎ストーリーのある単元計画は効果的だった。児童も主体的になった。

△家庭学習(宿題)の内容、質、量も個別にした方がいいか課題…。

取り組みの振り返り・児童生徒の姿の見取り (年間反省)

◎算数科に関しては、「楽しく分かる授業創り」を進めたことで、毎時間実感の伴った学びを体感することができた。正しく、深い理解は、実感を伴うことが大事。

△マンネリ化しない授業を創ること、児童の関心のあることに合わせた課題提示をすること、児童の実態にあった授業改善が大事。